

北条氏綱が奉納した太刀

これら 3 本の刀と、その装飾を施した刀装具は祭祀用であり、戦いで使用されることはありませんでした。これらの刀は、長く続いた戦国時代に鎌倉周辺の領地を治めた戦国大名、北条氏綱（1487-1541）が鶴岡八幡宮に奉納したものです。この地方の権力基盤を固めた氏綱は、その力や信仰心に示すことを目指して、過去数十年間の戦いで大きな被害を受けた鶴岡八幡宮の再建を開始しました。

氏綱は、中世には鎌倉幕府の信仰の中心で、武家政権の象徴でもあった鶴岡八幡宮を津々浦々から職人や建材を集め改修しました。氏綱は、改修が終了する 2 年前の 1538 年に、中世の様式の太刀を 3 本、鍛刀させ、黒塗りの桐に金色の時絵を施した鞘とともにこの神社に奉納しました。